4文字以下の完全マスター!

1 はじめに

- このワークシートは、「単語の覚え方がわからない」という、英語の苦手な中学校1年生を対象に作成したものですが、英語の得意な生徒や、他学年の生徒にお使いいただいてもかまいません。このワークシートに取り組むことで単語を覚える「コツ」が身についてきます。
- このワークシートでは、県内で使用されている中学校1年生用の英語の教科書に共通して使われている4文字以下の単語のみを扱っています。
- 「完全マスター」というタイトルになっていますが、教科書に登場するすべての4文字以下 の語を扱っているわけではありません。
- ワークシートは全部で12枚あり、1枚につき8個の英単語を扱っています。したがって合計96語の英単語を練習することになります。
 - ※ここでは、始めの1枚のみ掲載しています。全て必要な方は、県教育センターホームページからダウンロードして下さい。
- ワークシートは、単語の部分部分の読み方(発音)と綴りを結びつけるように設計されています。指定された練習方法で取り組むことで、生徒に少しずつ単語の覚え方のコツが身につき、 4文字以上の長い単語も覚えやすくなっていきます。「短かい単語ばかりで簡単だ」と言う生徒にも、「音と綴りを結びつける練習だ」ということを説明し、こつこつと取り組ませてください。

2 使用方法

- ワークシートの一番左はしの欄には、単語と意味が書いてあります。はじめにここで生徒に 意味と発音を復習させてください。
- 左から2番目の欄には、単語の「読み方」を示しています。カタカナで読み仮名をふっていますが、いわゆる「カタカナ英語」にならないよう、英語の発音に近い仮名をあてています。 なお、プリント上部の欄外には、そのワークシートでポイントとなる発音と綴りの関係を1 つだけ示しています。
- まずは、生徒に鉛筆かシャープペンシルの先で、「読み方」の欄の綴りを軽くなぞらせます。 その際に、必ず、なぞっている部分の発音を口に出して言わせるようにします。「ェア」と言い ながら「a」の部分を書かせ、「싴」と言わせながら「m」の部分を書かせるイメージです。
- 日本語の発音とは異なる発音には、以下のような読み仮名をふっています。通常の発音記号では英語の苦手な生徒は読めないことが多いのでカタカナを使っていますが、できるだけ本当の英語の発音に近づけるよう表記を工夫しています。授業等で最初にワークシートを扱う際に指導してください。

 $a: \text{x}\mathcal{F}$ (æ) $ch: \mathcal{F}$ $p: \mathcal{T}$ $v: \mathcal{G}$ $e: \mathcal{F}$ $f: \mathcal{T}$ $k: \mathcal{D}$ $w: \mathcal{F}$ $i: \mathcal{T}$ 語尾の $d: \mathcal{F}$ $f: \mathcal{F}$ $g: \mathcal{F}$

u:ア(Á) 語尾の1:ル n:ンヌ m:ム ※ 無声音や語尾の子音は白抜き文字にしています。

【例】have : ヘアヴ fun : フアンヌ

** th の音は、s ($^{\prime}$ $^{\prime}$) の音と区別するために、 $^{\prime}$ ($^{\prime}$) で表しています。

【例】this: ディス math: メアす

※ rの音はひらがなの「らりるれろ」で表しています。

【例】run : らシヌ very : ヴェりィ

- 「読み方」の欄を見ながら発音と綴りとを結びつけたら、「なぞり書き」の部分のうすく印刷されている単語をなぞりながら書きます。この際も、小さい声でいいので、書きながら部分部分の発音を言わせるようにしてください。
- 次に、「練習1」から「練習5」の欄に、できるだけ左を見ないようにしながら5回練習させます。
- 最後に、一番右端の「TEST!」の欄に、何も見ないで1度書きます。

3 「確認テスト」について

- 最初はワークシートを授業で扱い、家庭で練習させるとよいでしょう。やり方がわかれば、 いちいち授業で扱わなくても、家庭で練習できるようになるかと思います。
- いずれの場合も、生徒に練習の成果を実感させるために、「確認テスト」を行うとよいでしょう。テストは毎回行ってもよいし、数回に一度行ってもよいでしょう。
- テストの形式は、「発音と綴りの関係」を問う形式にすることで、生徒に達成感を味わわせや すくなります。

【確認テストの例】

☆ 読み仮名を参考にして、次の単語を書きなさい。			
(1)	1 0	[テンヌ]	
(2)	ペン	[ペンヌ]	
(3)	赤、赤い	[れッドゥ]	
(4)	ベッド	[ベッドウ]	

○ 1年生のまとめの段階や2年生以上の復習として行う場合、事前テストと事後テストを行い、 各個人の得点や集団の平均点の伸び率を示してやると、生徒の自信につながります。

【参考文献】

「柳井式英単語スペリングドリル」 柳井智彦 著 1991年 明治図書